



取扱説明書

PW80

PW80

4BC-28199-J8

ヤマハ PW80 をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書はお客様に車の操作、点検、整備をご理解いただけるよう作成されたものです。車の操作やメンテナンスなどに関するご質問は、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

この車は一般市販車と異なり、クレーム保証の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。また、定期点検制度、アフターサービスの対象外となりますので、各自が日頃の点検整備を行って常に最良の調子を保つように心掛けてください。

重要な事項：

- 車に乗る前に、この取扱説明書をよく読んで、説明を理解してください。
- 車に貼られている警告ラベル、注意ラベルをよくお読みください。
- 適切なトレーニングまたは教育を受けずに、車を操作しないでください。
- ライダーの体重は 40 kg を超えないようにしてください。

保護者の方へ重要なお知らせ：

この車は玩具ではありません。お子さんを車に乗らせる前に、保護者の方が取扱説明書の説明や警告を理解してください。その上でお子さんによく理解させ、またお子さんを補佐してください。子供たちは、能力、体力、判断力が 1 人 1 人異なります。車を安全に操作することができない子もいます。保護者の方は、いつもお子さんの車の使いかたを監督してください。お子さんが安全に車を操作できると判断したとしても、できる限り目を配ってください。

この車はパワーリダクションプレート（取り外し可能）を装備して出荷されています。ヤマハは全ての初心者が上達するまでは、パワーリダクションプレートの装着によるパワー制限を行うことを推奨しています。保護者の方は、お子さんのライディング能力の向上に応じてパワーリダクションプレートを取り外す時期を決めてください。ライダーがパワーリダクションプレートを装着した状態での最高速度で走れる技量になったら、パワーリダクションプレートを取り外すことができます。

モーターサイクルは 2 輪の乗り物です。安全に使用、操作できるかどうかは、操作する人のライディングテクニックと経験にかかっています。全ての使用者は、この車に乗る前に以下の必要条件を知っておいてください。

守ってください：

- 車の操作のあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
- この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
- 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。

はじめに

- 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要なときに、プロの整備を受けること。

本書では、重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています：

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
 注 意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

要 点

- 本書は車両の一部として常に車両とともに保管しておき、人に車両を譲るときは、必ず本書も渡してください。
- ヤマハでは、常に製品の設計および品質の改善をめざしております。したがって、本書に記載されている情報は、本書を印刷した時点で最新のものであり、実際の車両と本書の情報に多少の違いが生じている可能性があります。本書に関する疑問点については、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

JWA10030



車を使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。

JWA14350



この車両はオフロード専用です。国土交通省の認定は受けておりませんので、一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。また、この車は騒音規制に適合しておりません。車を使用する前に、地方条例等を確認してください。

* 製品と仕様は、予告なしに変更されることがあります。

もくじ

安全運転のために.....	1-1	運転操作	5-1	ドライブチェーンの給油	6-18
安全運転	1-1	始動と暖機運転		ケーブルの点検と注油	6-19
重要項目ラベルの貼り付け位置	1-4	(エンジンが冷えているとき)	5-1	スロットルグリップおよび	
		エンジン始動		ケーブルの点検と注油	6-19
各部の名称.....	2-1	(エンジンが暖まっているとき)	5-2	オートループポンプの調整	6-19
左側面	2-1	ギヤチェンジのしかた	5-2	ブレーキペダルおよび	
右側面	2-2	ならし運転	5-3	シフトペダルの点検と注油	6-20
運転装置と計器類	2-3	駐車	5-4	ブレーキレバーの点検と注油	6-20
				サイドスタンドの点検と注油	6-20
各部の取り扱いと操作.....	3-1	点検整備	6-1	フロントフォークの点検	6-21
ハンドルスイッチ	3-1	定期点検整備	6-1	ステアリングの点検	6-21
パワーリダクションプレート	3-1	サービスツール	6-1	ホイールベアリングの点検	6-22
シフトペダル	3-1	定期点検整備項目と給油	6-2	車体の支持	6-22
ブレーキレバー	3-2	スパークプラグの点検	6-6	フロントホイール	6-22
ブレーキペダル	3-2	パワーリダクションプレートの		リヤホイール	6-24
フューエルタンクキャップ	3-2	取り外しかた	6-7	こんなときは	6-26
燃料	3-3	トランスミッションオイル	6-8	トラブルシューティング	
フューエルタンク		エアクリナーエレメントの清掃	6-9	チャート	6-27
ブリーザーホース	3-4	スパークアレスターの清掃	6-10		
エンジンオイル	3-4	キャブレターの調整	6-11	お車の手入れと保管.....	7-1
フューエルコック	3-5	エンジンアイドル回転数の		お車の手入れ	7-1
チョークレバー “  ”	3-5	調整	6-12	保管のしかた	7-2
キックスターター	3-6	スロットルケーブルの遊びの		アフターケア用品について	7-3
シート	3-6	調整	6-12		
リヤクッション	3-7	タイヤ	6-13	製品仕様	8-1
		スポークホイール	6-14		
日常点検.....	4-1	アクセサリと交換部品	6-15	ユーザー情報	9-1
日常点検の実施	4-1	ブレーキレバーの遊びの調整	6-15	ID 番号	9-1
走行前点検リスト	4-2	ブレーキペダルの遊びの調整	6-16	二輪車を廃棄する場合は？	9-2
		前輪ブレーキシューと		サービスマニュアル（別売）の	
		後輪ブレーキシューの点検	6-16	紹介	9-3
		ドライブチェーン	6-17		

JAU41211

安全運転

- 走行前には必ず点検を行ってください。念入りな点検は事故防止に役立ちます。
- この車両はオフロード専用です。一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。また、私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。
- この車両は一人乗り専用です。運転者以外の人を乗せることはできません。
- 経験不足のライダーが多くの事故に巻き込まれています。
 - ・ ライダーはバイクに乗る技量が充分な人でなければなりません。またバイクに乗る技量が充分な人のみに貸すようにしてください。
 - ・ ご自身の技量と限界を熟知してください。自分の限界を超えないことが事故防止には大切です。
- 多くの事故はライダーのミスによって起きます。典型的な例は、スピードの出し過ぎやバンク角不足によってコーナーを曲がりきれなくなることです。速すぎる速度

で走行しないでください。

- 慣れない場所では注意して運転してください。隠れた障害物に出くわし、事故につながるおそれがあります。
- ライダーの姿勢は、正しい運転操作の上で重要です。両手でハンドルを握って、両足をフットレストに置き、車両をコントロールしてください。
- 酒気を帯びているとき、また薬物を飲んだときは運転しないでください。
- エンジンを始動する前に、必ずギヤをニュートラルにしてください。

身体を保護する服装

バイクの事故による死亡原因のトップは頭部への傷害です。頭部への傷害を防いだり、軽減させるためには、ヘルメットの着用が非常に重要です。

- ヘルメットはSまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。
- フェースシールドまたはゴーグルを着用してください。目を保護しないと、風圧の影響で視力が落ち、危険物の発見が遅れるおそれがあります。
- すり傷、切り傷を防ぐため、ジャケット、ブーツ、ズボン、グローブなどを着用してください。

- だぶついた服は着用しないでください。レパー、フットレスト、ホイールなどからつまり、傷害や事故につながるおそれがあります。
- 運転中、あるいは運転後、エンジンやマフラー、エキゾーストパイプにさわらないでください。高温のため、ヤケドをするおそれがあります。必ず身体を保護する服を着用し、足や足首を覆ってください。

改造

ヤマハが認可しない改造、部品の取り外しは、車両の操縦安定性を不安定なものにし、重大な人的傷害を引き起こすおそれがあります。

荷物の積載とアクセサリ

アクセサリーの装着によって、車両の重量配分が変化した場合、操縦安定性やハンドリングに重大な影響を及ぼします。アクセサリを装着するときは、十分に注意してください。また、アクセサリを取り付けた車両を運転するときは、十分に注意してください。以下は車両にアクセサリを装着する際に守るべき、一般的なガイドラインです。

積載

- 体重が 40 kg を超えるライダーは乗車しないでください。

安全運転のために

1

- アクセサリーの重量はできるだけ、車両より軽いものにしてください。なるべく車両の左右均等に重量を配分させ、偏ったり、不安定な状態はさけてください。
- 重量が移動すると、急に不安定になるおそれがあります。アクセサリは、運転前に車両に確実に取り付けようようにしてください。アクセサリの取り付け状態をこまめに点検してください。
- ハンドル、フロントフォーク、フロントフェンダーには大きなアクセサリや重量のあるアクセサリを取り付けしないでください。

アクセサリ

ヤマハ純正アクセサリは、この車両用に特別に設計されたものです。ヤマハは入手可能な他社製の全てのアクセサリのテストをすることができません。そのため、ヤマハ製でないアクセサリの適切な選択、取り付け、使用に対して、ライダーは個人的に責任を負わなければなりません。アクセサリの選択、取り付けには充分な注意を払ってください。

「積載」のガイドラインに加え、アクセサリを装着するにあたり以下のガイドラインに留意してください。

- モーターサイクルの性能を損なうアクセサリは取り付けしないでください。アクセサリを使用する前に、地上高、バンク角を低下させたり、サスペンションの動き、ハンドル切れ角や操縦性に制約を与えていないかどうか、念入りに点検してください。
- ハンドルやフロントフォーク部にアクセサリを取り付けると、重量配分が悪くなったり、空気力学上的変化により、操縦が不安定になるおそれがあります。ハンドルやフロントフォーク部にアクセサリを装着する場合、できるだけ軽量、最小にするようにしてください。
- 大きなアクセサリは車両の安定性に空気力学上、重大な影響を及ぼします。風の影響で車両が持ち上げられたり、横風により安定性を失うおそれがあります。
- アクセサリはライダーの正常なライディングポジションを妨げることもあります。不適切なポジションはライダーの自由な動きを妨げたり、操縦安定性を損なわせるおそれがあります。そのため、そのようなアクセサリはおすすめしません。

- 電装品を取り付けるときは注意してください。電装品が車両の電装システムの容量を超えた場合、電気的な不良が発生し、エンジンパワーの損失を招くおそれがあります。

ガソリンと排気ガス

- ガソリンには強い引火性があります。
 - 給油するときは、常にエンジンを止めてください。
 - 給油するときは、ガソリンがエンジンやエキゾーストパイプ、マフラーにこぼれないように注意してください。
 - 喫煙中や火気のあるところでは、絶対に給油しないでください。
- 風通しの悪い場所でエンジンを始動したり、かけたままにしないでください。排気ガスには毒性があり、短時間のうちに意識を失ったり、死を招くおそれがあります。常に風通しのよい場所で車両を運転してください。
- 車両から離れるときは、エンジンを止めてください。車両を駐車するときは、以下の点に注意してください。
 - エンジンやエキゾーストパイプ、マフラーは高温になっています。歩行者や子供が触れないような場所に駐車してく

ださい。

- 坂道や軟弱な地面には駐車しないでください。転倒するおそれがあります。
- 火気（例えば石油ストーブ、直火）の近くに駐車しないでください。引火するおそれがあります。
- 車両を運搬するときは垂直にし、フューエルコックを OFF にしてください。車両が傾くと、キャブレターやフューエルタンクからガソリンが漏れることがあります。
- 万一、ガソリンを飲んでしまったり、気化したガソリンを大量に吸い込んだり、ガソリンが目に入ったときは、ただちに医師の手当てを受けてください。ガソリンが皮膚や衣服にかかったときは、すぐに石鹸と水で洗い、着替えてください。

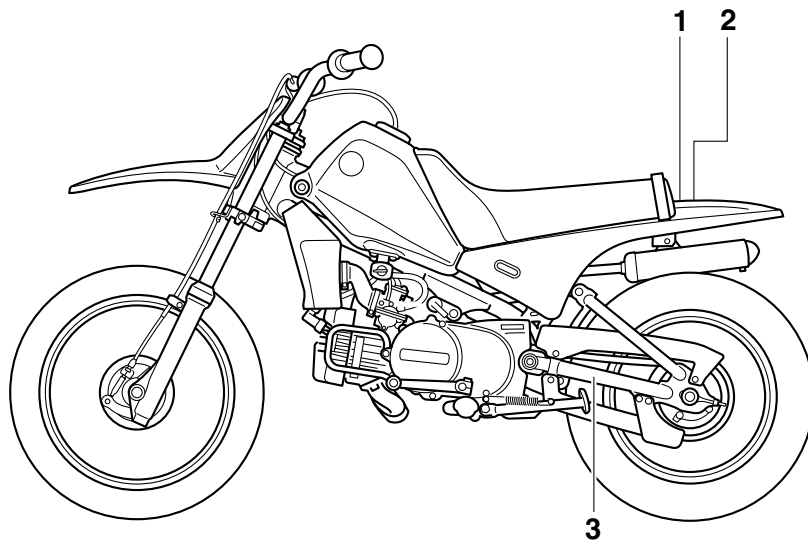
安全運転のために

JAU41370

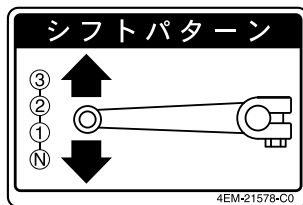
重要項目ラベルの貼り付け位置

車両を運転する前に以下に示す重要ラベルをお読みください。

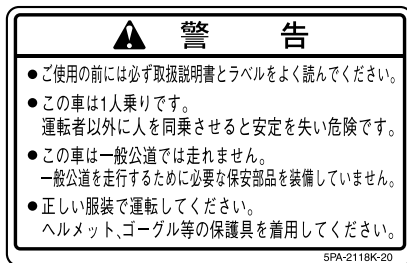
1



1



2



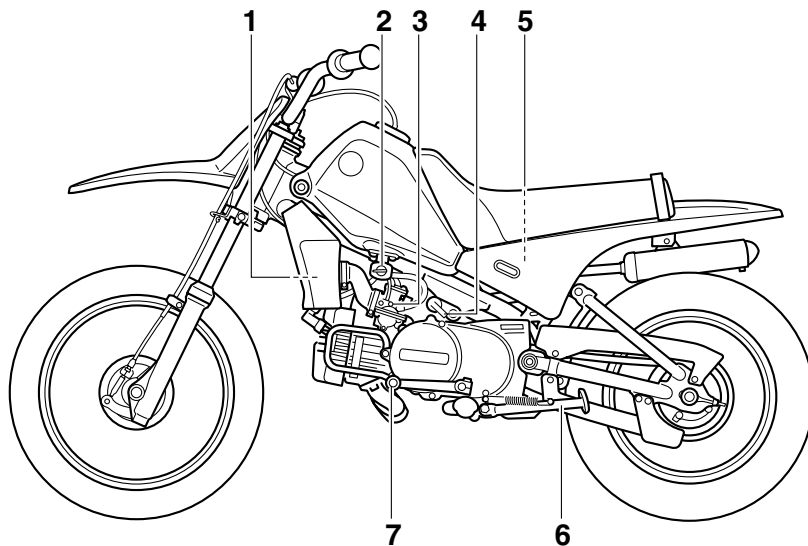
3



1

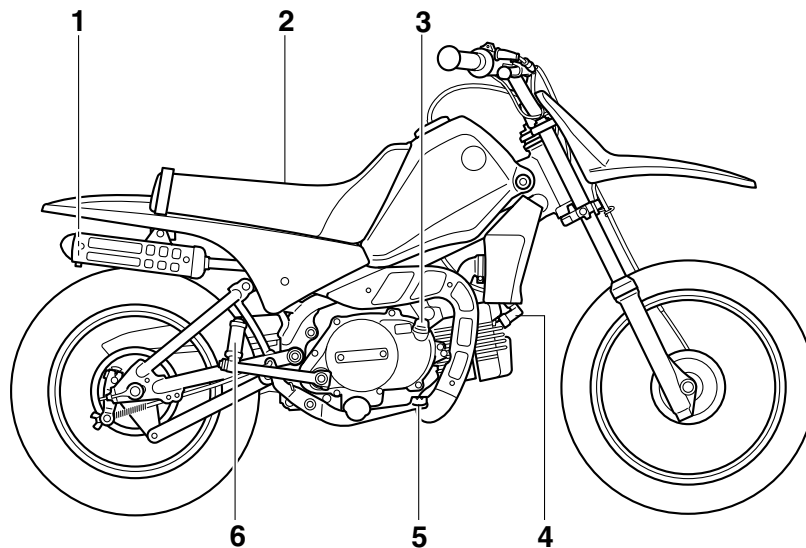
左側面

2



1. エアクリーナーエレメント (P 6-9)
2. フューエルコック (P3-5)
3. スロットルストップスクリュー (P6-12)
4. チョークレバー (P3-5)
5. エンジンオイルタンク (P3-4)
6. サイドスタンド (P6-20)
7. シフトペダル (P3-1/5-2)

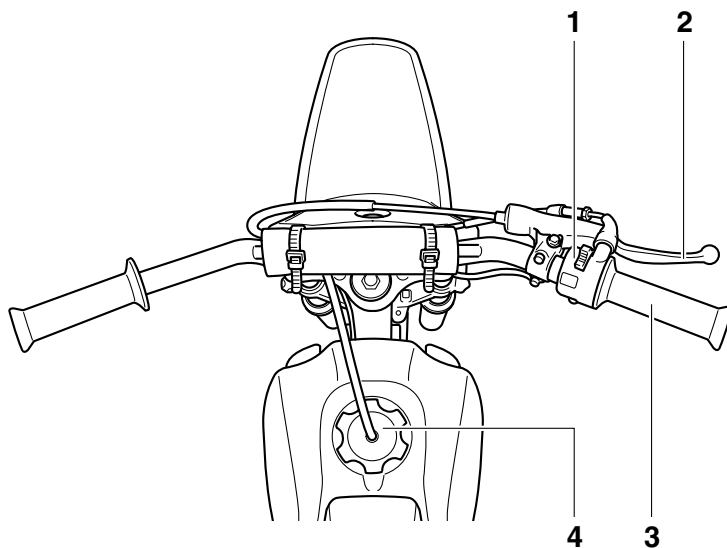
右側面



1. スパークアレスター (P6-10)
2. シート (P3-6)
3. トランスミッションオイル注入口 (P6-8)
4. スパークプラグキャップ (P6-6)
5. ブレーキペダル (P3-2)
6. キックスターター (P3-6)

運転装置と計器類

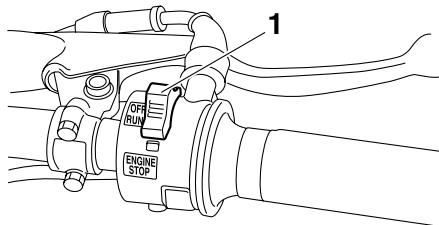
2



1. ハンドルスイッチ (右) (P3-1)
2. ブレーキレバー (P3-2)
3. スロットルグリップ (P6-12)
4. フューエルタンクキャップ (P3-2)

JAU40660

ハンドルスイッチ



1. エンジンストップスイッチ “ENGINE STOP”

JAU41130

エンジンストップスイッチ “ENGINE STOP”

エンジンを始動する前に、このスイッチを RUN にしておきます。このスイッチを OFF にするとエンジンが停止します。

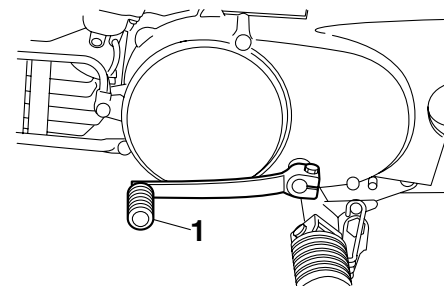
JAU41590

パワーリダクションプレート

お買い求めの車両はパワーリダクションプレートが装着された状態で出荷されています。ヤマハでは、全ての初心者様が運転に慣れるまでは、パワーリダクションプレートを取り付けて走行することを推奨いたします。お子さんの運転技量の向上に合わせて、車両のパワー調整を行うかどうか判断してください。ライダーが、パワーリダクションプレートが装着された状態での最高速度で走行できるようになったら、パワーリダクションプレートを取り外すことができます。(6-7 ページ参照)

JAU39850

シフトペダル



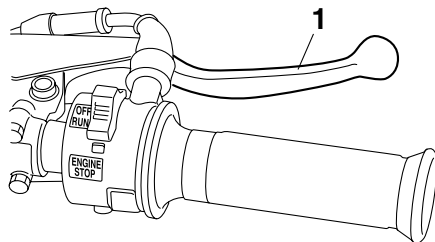
1. シフトペダル

この車には常時かみ合式、ボトムニュートラルの 3 段変速機が装備されています。シフトペダルはエンジンの左側にあります。

各部の取り扱いと操作

JAU12890

ブレーキレバー

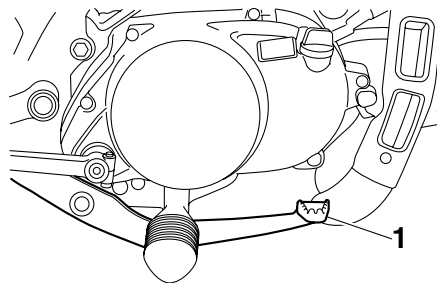


1. ブレーキレバー

ブレーキレバーは、ハンドルの右グリップ部に取り付けられています。前輪ブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。

JAU12941

ブレーキペダル



1. ブレーキペダル

ブレーキペダルは、車体の右側にあります。後輪ブレーキをかけるには、ブレーキペダル踏み込みます。

JAU13180

フューエルタンクキャップ

JWA12170

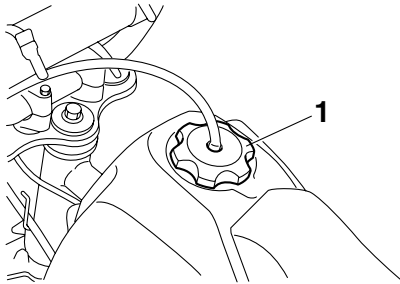
⚠ 警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- 給油限度を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。

JAU13220

JCA10070



1. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップを反時計方向に回して、取り外します。

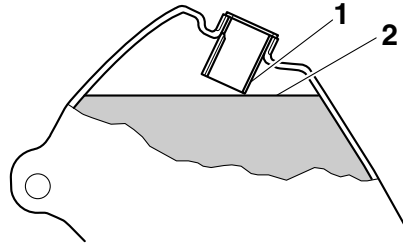
フューエルタンクキャップを給油口に挿入し、時計方向に回して取り付けます。

JWA11090



運転する前に、フューエルタンクキャップが正しく締まっているか確認してください。

燃料



1. フィラーチューブ

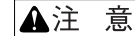
2. 給油限度

フューエルタンクに十分な燃料が入っているか、確認してください。給油するときは給油ノズルをフューエルタンクの注入口にしっかり差し込み、図のようにフィラーチューブの下部まで給油してください。

JWA10880



- 給油限度を超えてガソリンを入ると、ガソリンが温まって膨張したときにあふれるおそれがあります。
- 高温のエンジンにガソリンをこぼさないように注意してください。



こぼれたガソリンは、きれいな乾いた柔らかい布で直ちにふき取ってください。放置しておくと、塗装面やプラスチック部分を損傷するおそれがあります。

JAU13270

指定燃料：

無鉛レギュラーガソリン

タンク容量：

4.9 L

予備容量：

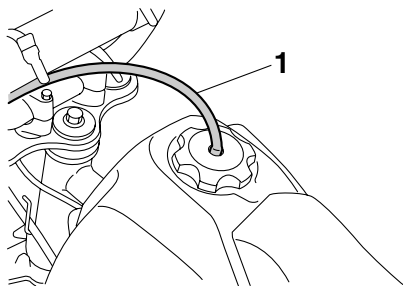
1.0 L

この車のエンジンは無鉛レギュラーガソリンを使うように設計されています。ノッキングやピンギングが発生した場合は、別の銘柄のガソリン、または無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

各部の取り扱いと操作

JAU13411

フューエルタンクブリーザーホース



1. フューエルタンクブリーザーホース

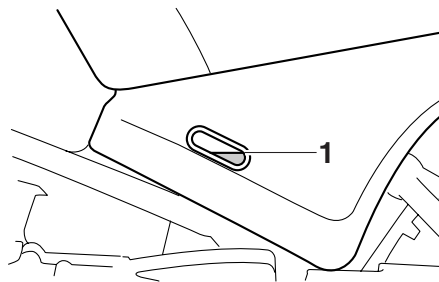
乗車の前に：

- フューエルタンクブリーザーホースの接続を点検します。
- フューエルタンクブリーザーホースを点検し、ひび、損傷がある場合は交換します。
- フューエルタンクブリーザーホースの端部がつまっていないか確認し、必要に応じて清掃してください。

JAU41201

エンジンオイル

エンジンオイルタンクに充分オイルがあることを確認してください。図のように2ストロークエンジンオイルがロアレベル以下の場合は、以下のように補充してください。

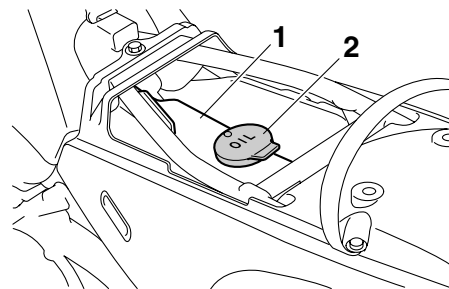


1. ロアレベル

要 点

エンジンオイルレベルの点検は、車を平坦な場所に垂直に立てて行ってください。車が傾いていると、正しく読み取ることができません。

1. シートを取り外します。(3-6 ページ参照)
2. オイルタンクキャップを外し、エンジンオイルを補給します。



1. エンジンオイルタンク
2. オイルタンクキャップ

推奨オイル：
(7-3 ページ参照)
オイル容量：
0.95 L

3. オイルタンクキャップを取り付けます。

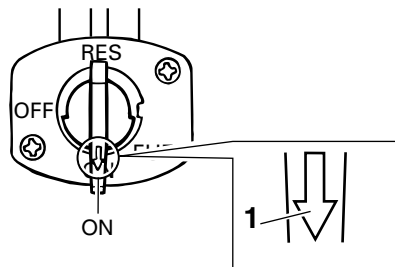
要 点

オイルタンクキャップが確実に取り付けられていることを確認してください。

4. シートを取り付けます。

フューエルコック

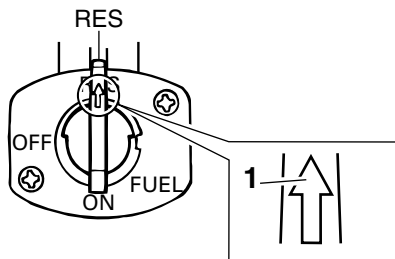
JAU13561



1. 矢印が“ON”を指している

始動および走行時のレバー位置です。

RES



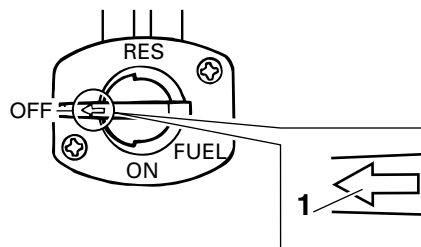
1. 矢印が“RES”を指している

予備燃料（予備容量約 1.0 L）を使用すると

きのレバー位置です。

ON で走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーを ON に戻してください。

OFF



1. 矢印が“OFF”を指している

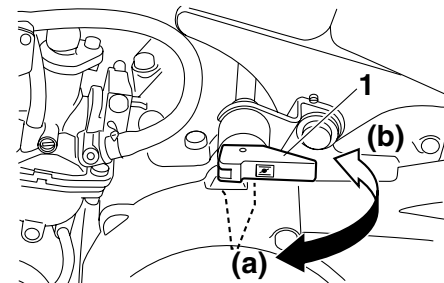
駐車時のレバー位置です。

ガソリンは流れません。

要 点

長期間使用しないときは、レバーを必ず OFF の位置にしてください。

チョークレバー “”



1. チョークレバー “”

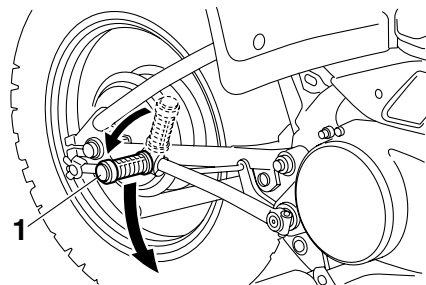
エンジンが冷えているときは、チョークを使用するとエンジンの始動が容易になります。レバーを (a) 方向に移動させ、チョークをオンにします。

レバーを (b) 方向に移動させ、チョークをオフにします。

各部の取り扱いと操作

JAU13680

キックスターター



1. キックスターターレバー

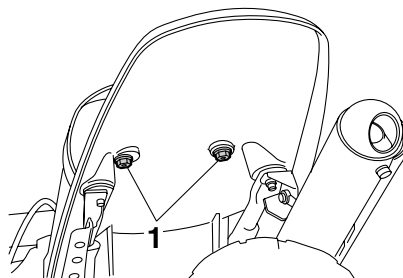
キックスターターレバーを出し、力強くキックします。

JAU41140

シート

シートの取り外しかた

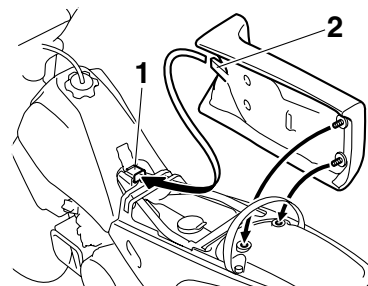
ナットを外し、シートを取り外します。



1. ナット

シートの取り付けかた

1. シート前部の突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。



1. ホルダー

2. 突起

2. シートを元の位置に取り付け、ナットを締め付けます。

要 点

乗車する前に、シートが正しく取り付けられていることを必ず確認します。

JAU15090

リヤクッション

JWA11510



リヤクッションユニットは高圧の窒素ガスを含んでいますので下記のことを厳守してください。

- 分解しない。
- 火気の中に投げ込まない。
- 廃棄するには、ガス抜きが必要です。必ずお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

日常点検

JAU42180

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、走行前点検リストに基づいた日常点検を必ず実施してください。

JWA12030



- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。）

走行前点検リスト

項目	点検、整備内容	参照ページ
燃料	● フューエルタンクの残量を点検します。 ● 必要に応じて補給します。 ● フューエルホースに漏れがないか点検します。	3-3
エンジンオイル	● オイル量を点検します。 ● 必要に応じて指定のオイルを規定量まで補充します。 ● オイル漏れがないか点検します。	3-4
トランスミッションオイル	● オイル量を点検します。 ● 必要に応じて指定のオイルを規定量まで補充します。	6-8
前輪ブレーキ	● 作動を点検します。 ● 必要に応じてレバーの取り付け部に注油します。 ● ブレーキレバーの遊びの量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	6-15, 6-16
後輪ブレーキ	● 作動を点検します。 ● ブレーキペダル遊びの量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	6-16
スロットルグリップ	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● ケーブルの遊びを点検します。 ● 必要に応じて、ヤマハ販売店でケーブルの遊びの調整、ケーブルおよびグリップハウジングの注油を依頼します。	6-12, 6-19
コントロールケーブル	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じて注油します。	6-19
ドライブチェーン	● チェーンのたわみ量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。 ● チェーンの状態を点検します。 ● ME-180 チェーンオイルを給油します。	6-17, 6-18

日常点検

項目	点検、整備内容	参照ページ
ホイールとタイヤ	● 損傷がないか点検します。 ● タイヤの状態と溝の深さを点検します。 ● 空気圧を点検します。 ● 必要に応じて調整、交換します。	6-13, 6-14
ブレーキペダルとシフトペダル	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じてペダルの取り付け部に注油します。	6-20
ブレーキレバー	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じてレバーの取り付け部に注油します。	6-20
サイドスタンド	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じて取り付け部に注油します。	6-20
車体の締付具合	● ナット、ボルト、スクリューが規定トルクで締まっているか点検します。 ● 必要に応じて締め付けます。	—
エンジンストップスイッチ	● 作動を点検します。	3-1

JAU41680

JWA14620

JAU41150

JWA14410

JCA11130

警告

- この車両はオフロード専用です。乗車前に各部の取り扱いと操作に慣れてください。操作でご不明な場合はヤマハ販売店にご相談ください。
- 風通しの悪い場所でエンジンを始動したり、かけたままにしないでください。排気ガスには毒性があり、短時間のうちに意識を失ったり、死を招くおそれがあります。常に風通しのよい場所で車両を運転してください。
- 発進の前に、サイドスタンドを上げてください。サイドスタンドを正しく上げないと地面に接地し、ライダーを混乱させたり、操縦安定性を損なわせるおそれがあります。

始動と暖機運転（エンジンが冷えているとき）

1. フューエルコックを ON にします。
2. エンジンストップスイッチを RUN にセットします。
3. ギヤをニュートラルにします。

警告

- エンジンを始動する前に、ギヤをニュートラルにしてください。
- サイドスタンドを下げたまま走行しないでください。

4. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉めます。（3-5 ページ参照）
5. キックして、エンジンを始動させます。
6. エンジンが始動したら、チョークを途中で戻します。

注意

エンジンを長持ちさせるため、走行前には常に暖機運転を行ってください。エンジンが冷えているときには、急激なスロットル操作はしないでください。

7. エンジンが暖まったら、チョークをオフにします。

要点

チョークをオフにした状態でエンジンがスロットルに正常に反応すれば、エンジンは暖まっています。

JAU16660

エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

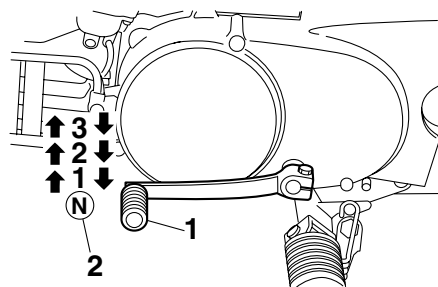
エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えているときのエンジン始動と同じ手順で行います。その代わりに、スロットルを少し開けた状態でエンジンを始動させます。

要 点

数回キックしてもエンジンが始動しない場合、スロットルを 1/4 から 1/2 開けて再度試みます。

JAU39901

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車は自動遠心式クラッチの 3 段変速です。ギヤチェンジを行って発進、加速や坂道を登るときなどに必要なエンジンのパワーを調整します。ギヤのポジションは図に示すようになっています。

要 点

ニュートラルにシフトするには、シフトペダルを一番下に行くまで繰り返し踏み込みます。

JCA15441

▲ 注 意

- ギヤがニュートラルの位置の状態でも、エ

ンジンをかけないまま長時間情性で走らせないでください。また、長い距離を牽引しないでください。トランスミッションはエンジンが回転している時のみ、適切に潤滑されます。潤滑不足によりトランスミッションに損傷を与えることがあります。

- ギヤを変えるときは、エンジン、トランスミッション、ドライブチェーンの損傷を防ぐため、スロットルグリップを戻してください。エンジン、トランスミッション、ドライブチェーンは、スロットルグリップを開けたままでのシフト操作に耐えられるようには設計されていません。

JAU39910

発進と加速のしかた

1. スロットルを閉じます。
2. ギヤを 1 速に入れ、シフトペダルを放します。

JCA15460

▲ 注 意

ギヤチェンジはスロットルグリップを戻してから行ってください。無理なギヤチェンジは故障の原因になります。

3. 少しづつスロットルを開けます。
4. 車が変速に適した速度に達したら、スロットルを閉じます。

5. ギヤを2速に入れ、シフトペダルを放します。
6. 少しづつスロットルを開けます。
7. 次のギヤに変速する時は同じ手順で行ってください。

JAU16710

減速のしかた

1. スロットルを完全に閉じます。前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に徐々にかけます。
2. 順にシフトダウンして行き、車両が停止したらギヤをニュートラルに入れます。

JAU39920

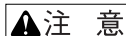
ならし運転

最初の5時間のならし運転は、エンジンの寿命にとって重要です。同じようにこの期間、ライダーがバイクになれることも重要です。以下の説明をよくお読みください。

エンジンは新品ですので、最初の5時間は過度な負荷をかけないでください。エンジン内の各部品が互いに摩擦、摺動することで正しい作動クリアランスとなります。この期間中、エンジンのオーバーヒートになりかねない長時間の全開運転は避けてください。しかし、短時間（最大2～3秒）であれば、スロットルを全開にしてもエンジンに悪影響はありません。スロットルを全開にする操作は、休み休み行ってください。また、熱を持ったエンジンを冷やすために、低速で走行しながら行ってください。

ならし運転後、部品がゆるんでいないか、オイル洩れや問題がないかを念入りに点検してください。特にケーブルやドライブチェーンのゆるみ、スポークのゆるみの点検、調整をしてください。さらに、各部のゆるみを点検し、必要であれば締め付けます。

JCA10270



ならし運転の間にエンジントラブルが発生

したときは、すぐにヤマハ販売店にて車両を点検してください。

JAU17190

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、フューエルコックをOFF にします。

JWA10310



- エンジンとエキゾーストシステムは非常に高温になることがあるので、歩行者や子供がそうしたものに触れないような場所に駐車してください。
- 斜面や軟弱な地面には駐車しないでください。車が転倒するおそれがあります。

JAU17291

安全を保つことは所有者の義務のひとつです。定期的な点検、調整や注油によって、車両の安全性と本来の性能を保つことができます。点検、調整や注油の重要なポイントについて以下の各ページで説明します。

JWA10320

**警告**

整備作業について自信がない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

JAU42370

定期点検整備

車両の正しい定期点検整備は、長くバイクを楽しんでいただく上で重要です。また、エンジンが十分に性能を発揮するためにも重要です。整備には、各種のデータ、知識、器具が必要です。ヤマハ販売店は、これらの整備を行なう上での訓練を受けており、設備も備わっています。

JWA10340

**警告**

ヤマハが認可しない改造は、性能を低下させたり、排気ガスを悪化させたり、安全性を低下させたりするおそれがあります。変更を行う前にヤマハ販売店にご相談ください。

JAU17310

サービスツール

本書に書いてある整備情報と、サービスツールに含まれる工具は、所有者がトラブル防止のための整備と簡単な修理を実行する際に役立てることができます。しかし、整備作業を正しく行うためには、トルクレンチなど別の工具が必要になります。

要 点

整備に必要な工具や経験をお持ちでない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

JWA10340

**警告**

ヤマハが認可しない改造は、性能を低下させたり、排気ガスを悪化させたり、安全性を低下させたりするおそれがあります。変更を行う前にヤマハ販売店にご相談ください。

定期点検整備項目と給油

要 点

- 160 時間以降は、40 時間の点検項目に戻って点検整備を繰り返してください。
- * 印の項目は、特殊工具、データ、技能を必要とするため、ヤマハ販売店に点検整備をご依頼ください。

NO.	項目	点検、整備内容	初回				以降の整備間隔		
			10 時間	20 時間	40 時間	80 時間	40 時間	80 時間	160 時間
1	* 燃料系統	● フューエルホースに亀裂や損傷がないか点検します。 ● 必要に応じて交換します。	√		√		√		
2	スパークプラグ	● 状態を点検します。 ● ギャップを調整し、清掃します。 ● 必要に応じて交換します。	√	√	√		√		
3	エアークリーナー エレメント	● きれいな灯油で洗浄します。 ● 必要に応じて交換します。		√	√	√	√		
4	* クラッチ	● 作動を点検します。 ● 必要に応じて調整します。		√	√		√		
5	* 前輪ブレーキ	● 作動を点検します。 ● ブレーキレバーの遊びの量を調整します。		√	√		√		
		● ブレーキシューを交換します。	摩耗限度に達したとき						
6	* 後輪ブレーキ	● 作動を点検します。 ● ブレーキペダルの遊びの量を調整します。		√	√		√		
		● ブレーキシューを交換します。	摩耗限度に達したとき						
7	* ホイール	● 振れ、スポークのゆるみや損傷がないかを点検します。 ● 必要に応じてスポークを増し締めします。	√	√	√		√		

NO.	項目	点検、整備内容	初回				以降の整備間隔		
			10 時間	20 時間	40 時間	80 時間	40 時間	80 時間	160 時間
8	*	タイヤ	● 溝の深さと損傷がないかを点検します。 ● 必要に応じて交換します。 ● 空気圧を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	√	√	√	√		
9	*	ホイールベアリング	● ベアリングがスムーズに動くか点検します。 ● 必要に応じて交換します。			√	√	√	
10	*	ステアリング ベアリング	● ベアリングにゆるみがないか点検します。 ● ヤマハグリス B を再封入します。			√			√
11		ドライブチェーン	● チェーンの張り、たわみと状態を点検します。 ● 調整して ME-180 チェーンオイルを給油します。	乗車毎					
			● 取り外して清掃します。		√		√		
12	*	車体各部の締め付け	● 車体各部が正しく締め付けられているか点検します。 ● 必要に応じて修正します。	√	√	√	√		
13		サイドスタンドの取り 付け部	● 作動を点検します。 ● ヤマハグリス B を薄く塗布します。		√			√	
14	*	フロントフォーク	● 作動とオイル漏れがないかを確認します。 ● 必要に応じて交換します。			√		√	
15	*	リヤクッション	● 作動とオイル漏れがないかを確認します。 ● 必要に応じて交換します。			√		√	

点検整備

NO.	項目	点検、整備内容	初回				以降の整備間隔		
			10 時間	20 時間	40 時間	80 時間	40 時間	80 時間	160 時間
16	*	キャブレター		√	√	√		√	
17	*	オートループポンプ	√	√	√		√		√
18		トランスミッション オイル		√	√			√	
19	*	ケーブル類			√	√		√	
20	*	スロットルグリップ ハウジングとケーブル	√	√	√		√		
21		ブレーキレバーの取り 付け部			√			√	
22		ブレーキペダルの取り 付け部			√			√	
23	*	シリンダーヘッドと 排気系統			√			√	
24	*	スパークアレスター			√		√		

要 点

著しく湿気やほこりの多い地域で走行している場合は、通常より頻繁にエアクリーナーエレメントを点検整備する必要があります。

点検整備

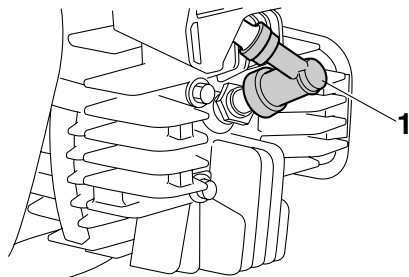
JAU442230

スパークプラグの点検

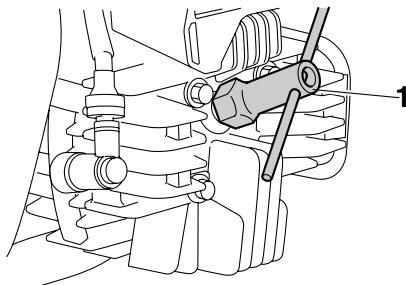
スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつですが、簡単に点検することができます。熱や堆積物のため、どんなスパークプラグでも徐々に腐食が進みますから、スパークプラグは必ず「定期点検整備項目と給油」に従って取り外し、点検してください。また、スパークプラグの状態によって、エンジンの状態が分かることもあります。

スパークプラグの取り外しかた

1. スパークプラグキャップを取り外します。



1. スパークプラグキャップ
2. 図のようにスパークプラグを取り外します。スパークプラグレンチはサービスツールの中にあります。



1. プラグレンチ

スパークプラグの点検のしかた

1. スパークプラグの中心電極の周りのガイシが淡いキツネ色になっているかを点検します。(淡いキツネ色に焼けているのが理想です。)

要 点

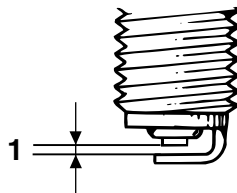
スパークプラグが明らかに違う色を示している場合は、エンジンが適正に運転されていない可能性があります。このようなときはご自分で判断を行わずにヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

2. スパークプラグを調べて電極の腐食や過度のカーボンやその他の堆積物がないかを確認し、必要に応じてスパークプラグを交換します。

指定スパークプラグ：
NGK/BPR6HS

スパークプラグの取り付けかた

1. シックネスゲージでスパークプラグのギャップを測定し、必要に応じて規定値に合うようにギャップを調整します。



1. プラグギャップ

スパークプラグギャップ：
0.6–0.7 mm

2. スパークプラグガasketの表面と、その合わせ面を清掃し、スパークプラグのねじ山に汚れがあればふき取ります。
3. スパークプラグレンチを使ってスパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

スパークプラグ：

25 Nm (2.5 m · kgf)

要 点

スパークプラグを取り付けるときにトルクレンチが利用できない場合、指で締め付けてから 4 分の 1 から 2 分の 1 回転させると、ほぼ正しい締め付けトルクになります。しかし、できるだけ早く規定の締め付けトルクで締め付けを行ってください。

4. スパークプラグキャップを取り付けます。

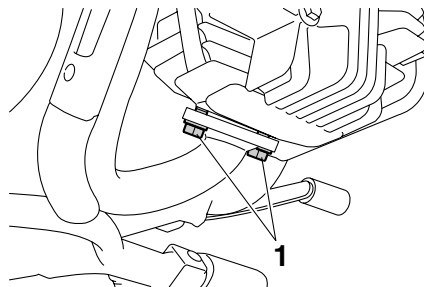
パワーリダクションプレートの取り外しかた

エンジン性能を最大に引き出すには、パワーリダクションプレートを取り外す必要があります。

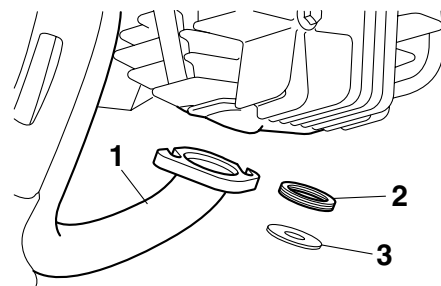


警告 排気システムの部品に触る前に、排気システムを冷やしてください。

1. エキゾーストマニホールド取付ボルトを外し、エキゾーストマニホールドを取り外します。



1. エキゾーストマニホールド取付ボルト
2. ガasketを取り外します。
3. パワーリダクションプレートを取り外します。



1. エキゾーストマニホールド
2. ガasket
3. パワーリダクションプレート

要 点

パワーリダクションプレートは、再度使用する場合に備え、取扱説明書と一しょに保管しておいてください。

4. ガasketとエキゾーストマニホールドを取り付け、エキゾーストマニホールド取付ボルトを締め付けます。

締め付けトルク：

エキゾーストマニホールド取付ボルト：

18 Nm (1.8 m · kgf)

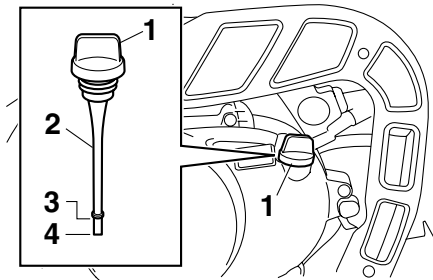
点検整備

JAU19942

トランスミッションオイル

トランスミッションオイル量は乗車前に毎回、点検してください。また、トランスミッションオイルは「定期点検整備項目と給油」に指定されている時期に交換してください。

トランスミッションオイル量の点検



1. オイル注入口キャップ
2. オイルレベルゲージ
3. フルレベル
4. ロアレベル

1. 車を平坦なところで垂直に立てます。

要 点

オイル量を点検するときは、車体が直立していることを確認してください。傾いていると正しく読み取れません。

2. 数分間待って、オイルが安定してからオ

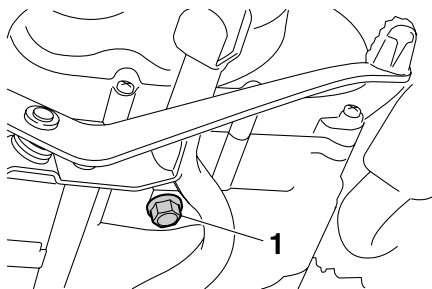
イル注入口のキャップを外し、オイルレベルゲージをきれいに拭いてオイル注入口に（ねじ込まないで）差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。

要 点

オイル量はフルレベルとロアレベルの間にあるようにしてください。

3. もしもオイルの量がフルレベルに満たない場合は、推奨されたオイルを規定のレベルまで補充します。
4. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、キャップを締めます。

トランスミッションオイルの交換



1. トランスミッションオイルドレンボルト

1. エンジンを始動し、数分間暖機運転してから停止します。

2. 使用済みのオイルを回収するため、トランスミッションの下にオイルトレイを置きます。
3. オイル注入口のキャップとトランスミッションオイルドレンボルトを取り外し、トランスミッションからオイルを抜き取ります。
4. トランスミッションオイルドレンボルトを取り付け、規定トルクで締め付けます。

締め付けトルク：

トランスミッションオイルドレンボルト：

20 Nm (2.0 m・kgf)

5. 規定量の推奨トランスミッションオイルを補充してから、オイル注入口のキャップを取り付けてしっかりと締めます。

推奨オイル：

(7-3 ページ参照)

オイル容量：

0.65 L

JCA10452

⚠ 注 意

- クラッチの滑りを防ぐため（トランスミッションオイルにはクラッチの潤滑作用も

あるため)、いかなる化学添加剤も混ぜないでください。ディーゼル車用の CD 級オイルや、指定よりも高いグレードのオイルは使わないでください。また、ENERGY CONSERVING II 以上のラベルのついたオイルは使わないでください。

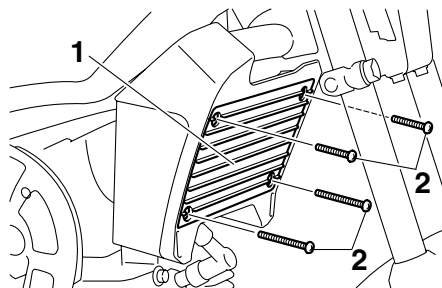
- トランスミッションに異物が入らないように注意してください。

6. エンジンを始動し、数分間アイドリングさせながら、トランスミッションオイルの漏れがないかを点検します。もし、漏れていたらエンジンをただちに停止し、原因を調べてください。

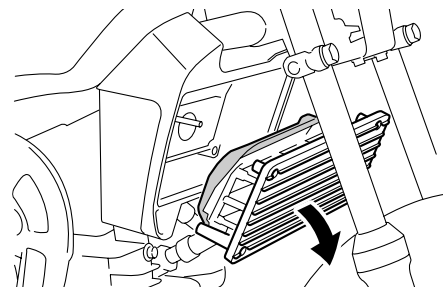
エアクリーナーエレメントの清掃

エアクリーナーエレメントは「定期点検整備項目と給油」で指定する時期に点検整備を行ってください。ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、指定の時期より早めにエアクリーナーエレメントを清掃してください。

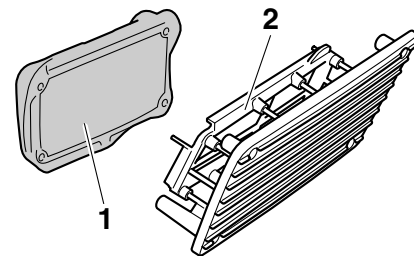
1. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



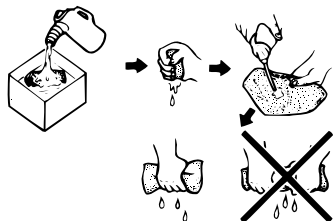
1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー



2. エアクリーナーエレメントを取り外し、きれいな灯油で洗浄して軽くしぼります。



1. エアクリーナーエレメント
2. エアクリーナーケースカバー



3. ME-R フィルターオイルをエアクリナーエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。

要 点

エアクリナーエレメントは湿った状態にしますが、オイルがたれる程にはしないでください。

指定オイル：
ME-R フィルターオイル

4. エアクリナーエレメントをエアクリナーケースカバーに取り付けます。

JCA10480

▲ 注 意

- エアクリナーエレメントがエアクリナーケースに正しく装着されていること

を確認してください。

- エアクリナーエレメントを取り付けないうままエンジンを始動しないでください。これを行うと、ピストンやシリンダーの摩耗が激しくなります。

5. エアクリナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

JAU41230

スパークアレスターの清掃

スパークアレスターは「定期点検整備項目と給油」に示された時期に清掃を行ってください。

JWA10980

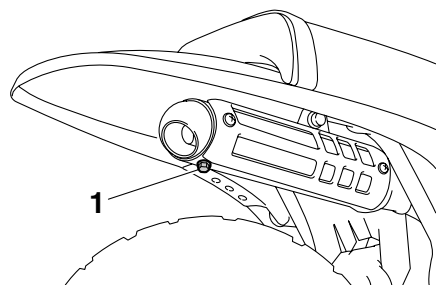
▲ 警 告

- 排気システムの部品に触れる前に、排気システムを冷やしてください。
- 排気システムを清掃する時は、エンジンを始動しないでください。

要 点

風通しが良く、可燃物がない場所でスパークアレスターの清掃を行ってください。

1. ボルトを取り外してテールパイプをマフラーから引き出します。



3. テールパイプをマフラーに差し込み、ボルトを締め付けます。

要 点

テールパイプを差し込むとき、ボルトの穴が正しく合うようにしてください。

キャブレターの調整

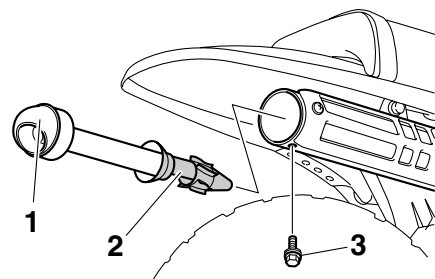
キャブレターはエンジンの重要な部品で、非常に高度な調整が要求されます。キャブレターの調整はヤマハ販売店で行ってください。ただし、以下に示す調整は日常の整備のひとつとしてユーザーでも調整できます。

JCA10550

⚠ 注 意

キャブレターは工場で調整され、広範囲にテストを受けています。技術的な知識がない人がセッティングを変更すると、エンジン性能が低下したり、エンジンを損傷することがあります。

1. ボルト
2. テールパイプを軽くたたいてからワイヤーブラシを使ってテールパイプのスパークアレスター部分と内部に堆積したカーボンを取り除きます。



1. テールパイプ
2. スパークアレスター
3. ボルト

JAU42240

エンジンアイドリング回転数の調整

エンジンアイドリング回転数は「定期点検整備項目と給油」に従って点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

要 点

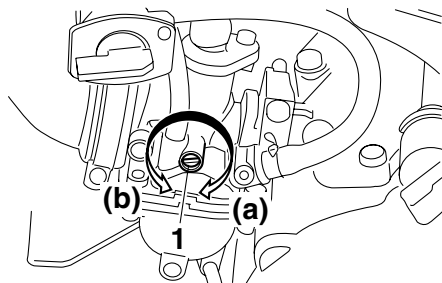
この調整を行うには、測定用のタコメーターが必要です。

1. 測定用のタコメーターをスパークプラグのリード線に取り付けます。
2. エンジンをかけて 1000 ～ 2000 回転で数分間暖機します。この間、ときどき 4000 ～ 5000 回転まで、回転を上げます。

要 点

スロットルレスポンスが良くなれば、エンジンは暖まっています。

3. エンジンのアイドリング回転数を点検します。調整が必要な場合は、スロットルストップスクリューを調整しながら規定のエンジン回転数に設定します。エンジン回転数を上げるにはスクリューを (a) 方向に回します。エンジン回転数を下げるにはスクリューを (b) 方向に回します。



1. スロットルストップスクリュー

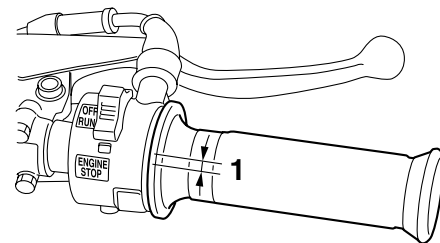
アイドリング回転数：
1650-1750 r/min

要 点

以上の手順で規定のアイドリング回転数に設定できない場合、ヤマハ販売店で調整を行ってください。

JAU21370

スロットルケーブルの遊びの調整



1. 遊び

スロットルケーブルの遊びは、スロットルグリッパ部分で 3.0-5.0 mm です。スロットルケーブルの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

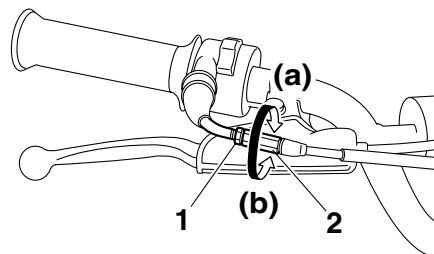
要 点

スロットルケーブルの遊びを調整する前に、エンジンのアイドリング回転数の調整を正確に行う必要があります。

1. ロックナットをゆるめます。
2. スロットルケーブルの遊びを増やすときはアジャスターを (a) 方向に、スロットルケーブルの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。

JAU39820

タイヤの点検



1. ロックナット
2. アジャスター
3. ロックナットを締め付けます。

タイヤ

車の性能と耐久性を最大限に引き出しながら安全に乗っていただくために、指定のタイヤについて以下の点に注意してください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧は乗車前に毎回点検して、必要に応じて調整してください。

JWA14380



- 空気圧の確認は、タイヤが冷えている状態で（タイヤの温度と外気温が同じ時に）行ってください。
- タイヤ空気圧は運転者の体重、走行速度と走行状況を考慮して調整してください。

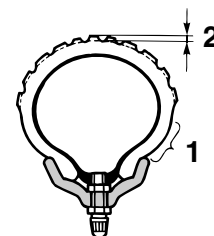
タイヤ空気圧：

前輪：

100 kPa (1.00 kgf/cm²)

後輪：

100 kPa (1.00 kgf/cm²)



1. サイドウォール
2. 溝の深さ

タイヤは乗車前に毎回点検してください。タイヤ中央の溝の深さが使用限度に達していたり、釘やガラスの破片が刺さっていたり、あるいはサイドウォールに異常がある場合は、ヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

タイヤの溝の深さの使用限度：
4.0 mm

タイヤの情報

この車はスポークホイールとチューブタイヤを装備しています。

⚠ 警 告

- 前後輪ともに同じメーカー、同じデザインのタイヤを使用してください。そうしなかった際のハンドリングの特性について、一切保証しません。
- ヤマハ発動機株式会社が、長期試験を経てこのモデル用に認定したタイヤは、下記のリストのものです。

前輪：

サイズ：

2.50-14 4PR

メーカー／型式：

CHENG SHIN/KNOBBY

後輪：

サイズ：

3.00-12 4PR

メーカー／型式：

CHENG SHIN/KNOBBY

⚠ 警 告

- 過度にすり減ったタイヤはヤマハ販売店で交換してください。過度にすり減ったタイヤで運転すると操縦安定性が低下し、正常なハンドリングができなくなるおそれ

があります。

- タイヤを含め、ホイールやブレーキ関連の部品交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

スポークホイール

バイクの性能と耐久性を最大限に引き出しながら、永く、安全に乗っていただくために、指定ホイールに関する以下のポイントに注意してください。

- ホイールのリムにひびや曲がり、歪みやスポークのゆるみ、損傷がないか、乗車前に毎回点検してください。損傷があった場合、ヤマハ販売店でホイールを交換してください。ホイールに関してはたとえ小さな修理であっても行わないでください。変形したり、ひびが入っているホイールは必ず交換してください。
- タイヤかホイールのどちらかを交換したら、必ずホイールのバランス取りを行ってください。ホイールのバランスが取れていないと、性能の低下やハンドリング特性の悪化、タイヤの寿命が縮まるおそれがあります。
- タイヤの交換をした後は、まず「ならし運転」をしてタイヤ表面に最適な特性が発揮出来るまでスピードを出し過ぎないでください。

アクセサリと交換部品

JAU40431

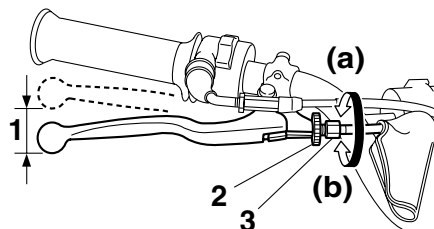
JWA14481



アクセサリや交換部品は、この車用に設計されたものでなければなりません。また、設計上の本来の安定性が維持されるよう、確実に装着されなければなりません。ヤマハ純正部品とアクセサリは、あなたのお車に合うよう設計され、テストされています。ご購入前にヤマハ純正部品とアクセサリのことを考慮に入れてください。ヤマハが認可していないアクセサリや交換部品の使用は、操縦安定性や安全運転に支障があることもあります。ヤマハは他社製のアクセサリや部品の品質について管理できませんので、ヤマハが認可していない部品の使用によって起きるあらゆる結果に対しては責任を負いかねます。

ブレーキレバーの遊びの調整

JAU22120

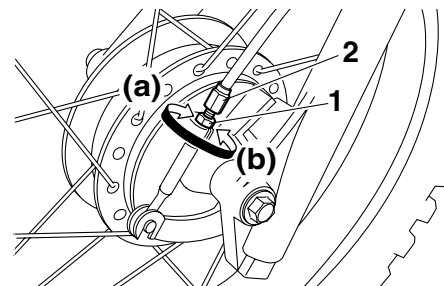


1. 遊び
2. ロックナット
3. アジャスター

ブレーキレバーの遊びはレバー先端部で10.0–20.0 mmです。ブレーキレバーの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

1. ブレーキレバー部のロックナットをゆるめます。
2. ブレーキレバーの遊びを増やすときはアジャスターを(a)方向に回します。ブレーキレバーの遊びを減らすときはアジャスターを(b)方向に回します。
3. 上記の説明のようにブレーキレバーの遊びの量が調整できない場合、以下の手順に進んでください。

4. ブレーキレバーのアジャスターを(a)方向にいっぱいまで回して、ブレーキケーブルをゆるめます。
5. ブレーキシュープレート部のロックナットをゆるめます。
6. ブレーキレバーの遊びを増やすときはアジャスターを(a)方向に回します。ブレーキレバーの遊びを減らすときはアジャスターを(b)方向に回します。

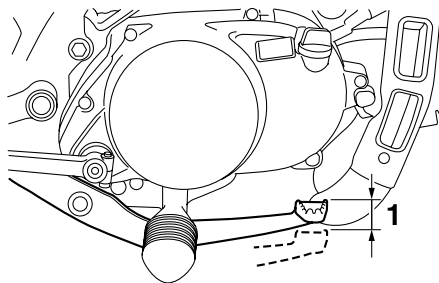


1. ロックナット
2. アジャスター

7. ブレーキシュープレート部のロックナットとブレーキレバー部のロックナットを締め付けます。

JAU39811

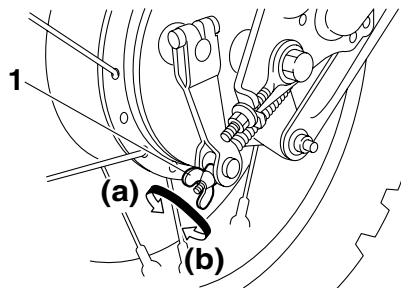
ブレーキペダルの遊びの調整



1. 遊び

ブレーキペダルの遊びは図に示す位置で 10.0-20.0 mm です。ブレーキペダルの遊びは定期的に調べて、必要なら以下の手順で調整します。

ブレーキペダルの遊びを増やす時はブレーキ調整用のアジャスターを (a) 方向に、ブレーキペダルの遊びを減らす時はブレーキ調整用のアジャスターを (b) 方向に回します。



1. アジャスター

JAU42250

前輪ブレーキシューと後輪ブレーキシューの点検

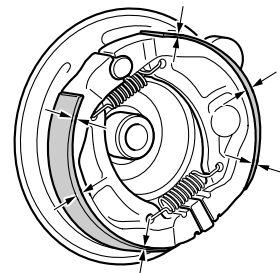
前輪および後輪ブレーキシューは「定期点検整備項目と給油」で指定された時期に点検してください。

要 点

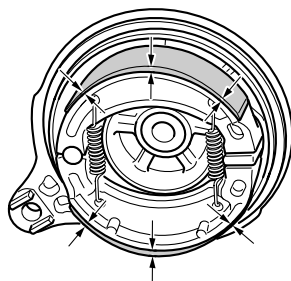
ブレーキシューの点検を行うには、ホイールを取り外す必要があります。

- フロントホイールの取り外しかた：(6-22 ページ参照)
- リヤホイールの取り外しかた：(6-24 ページ参照)

前輪



後輪



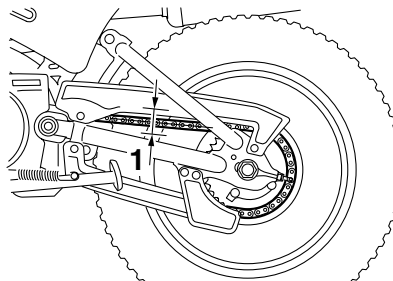
ブレーキシューの厚さが1.5mm以下のときは、ヤマハ販売店でブレーキシューの交換を行ってください。

要 点

ブレーキシューの厚さを測るときは、一番薄い部分で測ってください。

ドライブチェーン

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

サイドスタンドを立て、前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要 点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、シートに荷重を掛けないで、リヤクションが伸びきった状態で行います。

また、リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU22760

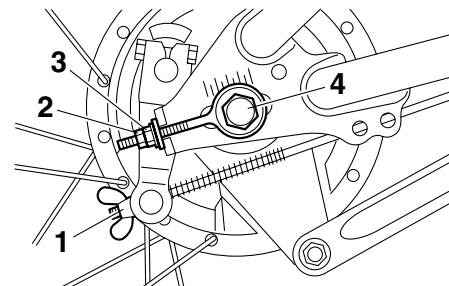
JAU22771

ドライブチェーンたわみ量：
40.0-53.0 mm

JAU42380

チェーンの張り調整

1. セルフロックングナットと、スイングアーム両側のロックナットをゆるめま

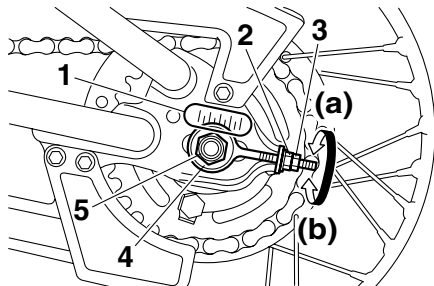


1. アジャスター
2. ロックナット
3. ドライブチェーン調整ナット
4. ホイールアクスル

2. チェーンを張るにはドライブチェーン調整ナットを (a) 方向に回します。チェーンをゆるめるにはドライブチェーン調整ナットを (b) 方向に回して、リヤホイールを前側へ押します。

要 点

ドライブチェーン調整ナットは左右均等に調整します。(刻み目盛りを左右同位置にします。)



1. 刻み目盛り
2. ドライブチェーン調整ナット
3. ロックナット
4. ワッシャー
5. セルフロックングナット

JCA10570

⚠ 注 意

ドライブチェーンの遊びが正しく調整されていないとエンジンなどの重要な部品に過負荷が発生し、チェーンの滑りや破損が生じるおそれがあります。これらを予防するため、ドライブチェーンのたわみ量は規定の量に保つようにしてください。

3. 調整後、スイングアーム両側のロックナットおよびセルフロックングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

ロックナット：

6.5 Nm (0.7 m・kgf)

セルフロックングナット：

60 Nm (6.0 m・kgf)

4. ブレーキペダルの遊びを調整します。
(6-16 ページ参照)

JAU23013

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながらチェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを、柔らかいブラシなどで落とします。その後、ME スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンに ME-180 チェーンオイルを給油します。

JAU41840

ケーブルの点検と注油

すべてのコントロールケーブルの作動性の状態は、乗車前に毎回点検し、必要に応じてケーブルとケーブルのエンド部に注油します。ケーブルが損傷していて、スムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。

推奨する潤滑剤：

ME-180 ワイヤークリース

JWA10710



警告

ケーブルのアウトターハウジングに損傷があると錆が発生し、ケーブルの作動を妨げる原因となります。危険な状態を防止するため、損傷を受けたケーブルはできるだけ早く交換してください。

JAU42260

スロットルグリップおよびケーブルの点検と注油

スロットルグリップの作動は、乗車前に毎回点検してください。また、ケーブルは、「定期点検整備項目と給油」で指定する時期に注油してください。

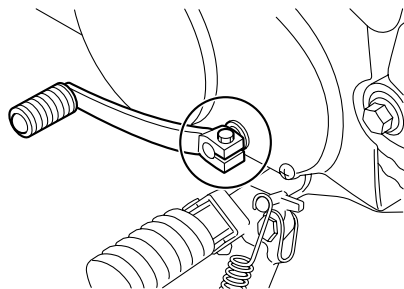
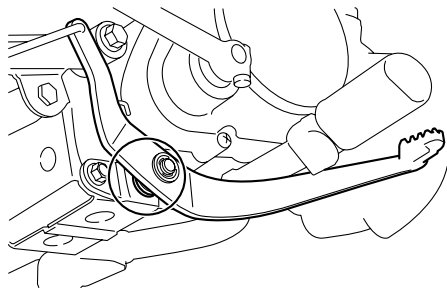
JAU42270

オートループポンプの調整

オートループポンプはエンジンの重要で繊細な部品です。「定期点検整備項目と給油」で指定する時期にしたがってヤマハ販売店で調整を行ってください。

JAU23131

ブレーキペダルおよびシフトペダルの点検と注油

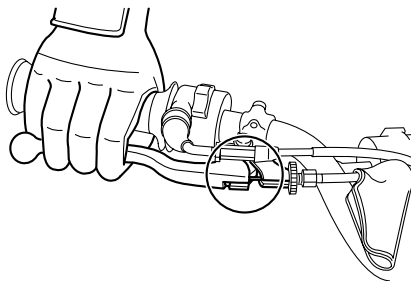


ブレーキペダルおよびシフトペダルは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリースB

JAU23152

ブレーキレバーの点検と注油

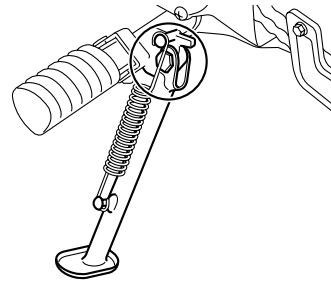


ブレーキレバーは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリースB

JAU23200

サイドスタンドの点検と注油



サイドスタンドは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

JWA10730

**警告**

サイドスタンドの動きがスムーズでない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリースB

フロントフォークの点検

フロントフォークの状態と作動は、「定期点検整備項目と給油」で指定する時期に、次の手順で点検してください。

外観の点検

JAU42280



警告

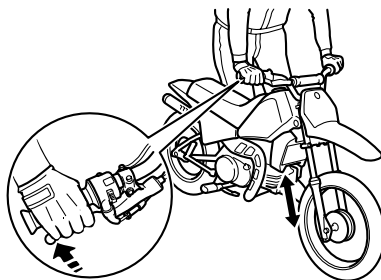
車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

チューブにかき傷や損傷、過度のオイル漏れがないか点検します。

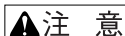
作動の点検

1. 車体を平坦な場所に立て、直立した状態に保ちます。
2. 前輪ブレーキをかけながらハンドルを数回強く押し下げて、フォークがスムーズに圧縮し、弾力があるか確認します。

JWA10750



JCA10590



注意

何らかの損傷が見られたり、フロントフォークがスムーズに作動しない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

ステアリングの点検

ステアリングのベアリングが摩耗していたり緩んでいたりすると、大変危険です。したがって、「定期点検整備項目と給油」で指定する時期にステアリングの作動性を点検してください。

1. エンジンの下部にスタンドを置いて、前輪を浮かせます。

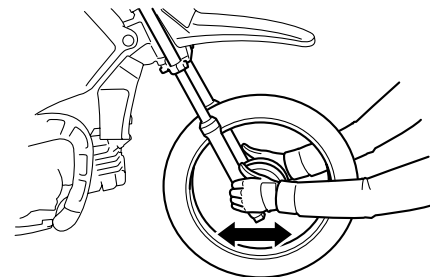
JWA10750



警告

車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

2. フロントフォークの先端をつかんで、前後に動かし、異常なガタつきがある場合は、ヤマハ販売店にステアリングの点検、修理を依頼してください。



ホイールベアリングの点検

前輪および後輪のホイールベアリングは、「定期点検整備項目と給油」で指定する時期にしたがって注油してください。ホイールハブに遊びがあったり、ホイールがスムーズに回転しない場合は、ヤマハ販売店でホイールベアリングの点検整備を受けてください。

車体の支持

このモデルはメインスタンドを装備していませんので、フロントホイールやリヤホイールを取り外したり、車体を支持する必要がある整備を行う際には以下に示すようにして車体を支持してください。

フロントホイール

1. 車体の後部をオートバイ用のスタンドを使って支持します。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部にジャッキをかけて支持してください。
2. オートバイ用スタンドを使ってフロントホイールを地面から持ち上げます。

リヤホイール

オートバイ用スタンドを使ってリヤホイールを地面から持ち上げます。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部、またはスイングアームの両側にジャッキをかけて支持してください。

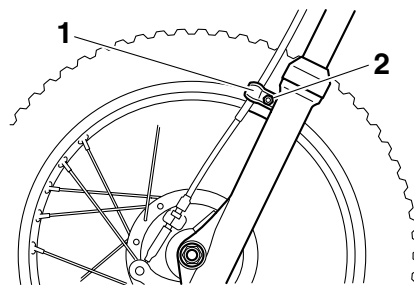
フロントホイール

フロントホイールの取り外しかた

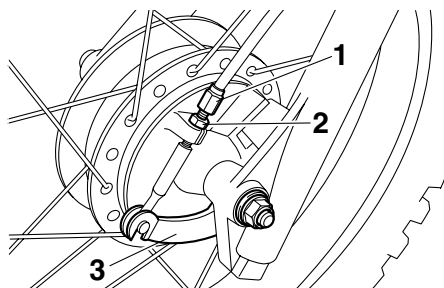


- ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。
- 車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

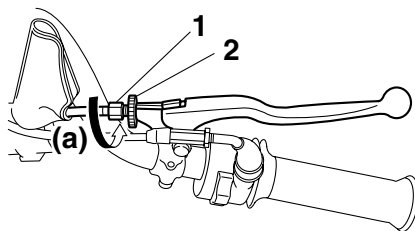
1. ボルトを外し、ブレーキケーブルホルダーを取り外します。



1. ブレーキケーブルホルダー
2. ボルト
2. フロントホイールハブ側のブレーキケーブルロックナットとアジャスターをゆるめます。

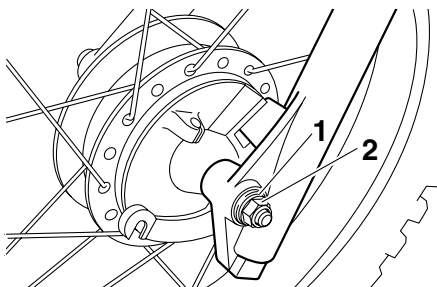


1. アジャスター
 2. ロックナット
 3. ブレーキカムシャフトレバー
3. ブレーキレバー側のロックナットをゆるめ、アジャスターを (a) 方向に一杯に締め込みます。



1. アジャスター
2. ロックナット

4. ブレーキケーブルをブレーキレバーから取り外します。
5. ブレーキケーブルをブレーキカムシャフトレバーから取り外します。
6. セルフロックングナットとワッシャーを取り外します。

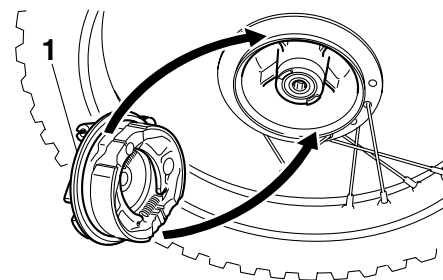


1. ワッシャー
 2. セルフロックングナット
7. フロントホイールを地面から持ち上げます。(6-22 ページ参照)
 8. ホイールアクスルを引き抜いて、フロントホイールを取り外します。

JAU41550

フロントホイールの取り付けかた

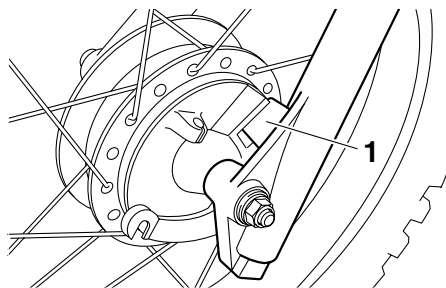
1. ホイールハブにブレーキシュープレートを図のように取り付けます。



1. ブレーキシュープレート
2. フロントフォークの間にホイールを持ち上げます。

要 点

ブレーキシュープレートの溝にフロントフォークのリテーナーが合うように組み付けます。



1. リテーナー

3. ホイールアクスルを差し込み、ワッシャーとセルフロックングナットを取り付けます。

4. フロントホイールを下げて地面に接地させます。

5. ブレーキシュープレートにブレーキケーブルを取り付けます。

6. ブレーキレバーにブレーキケーブルを取り付けます。

7. ブレーキケーブルホルダーを取り付け、ボルトを取り付けます。

8. セルフロックングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

セルフロックングナット：
35 Nm (3.5 m・kgf)

9. ブレーキレバーの遊びの調整を行います。(6-15 ページ参照)

10. ハンドルバーを何度か強く上下に押して、フロントフォークが正常に作動するか確認します。

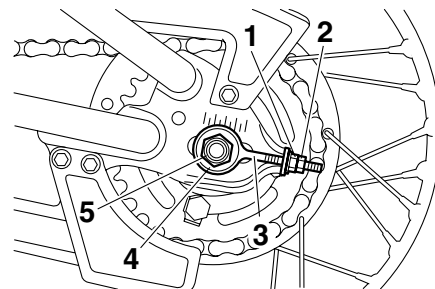
リヤホイール

リヤホイールの取り外しかた

⚠ 警告

- ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。
- 車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

1. セルフロックングナットをゆるめます。



1. ドライブチェーン調整ナット
2. ロックナット
3. チェーンブラー
4. ワッシャー
5. セルフロックングナット

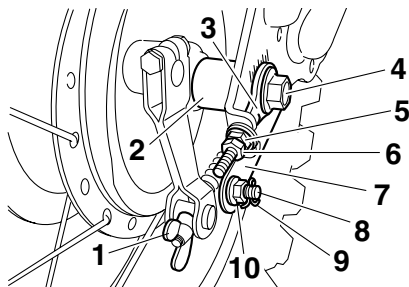
2. アジャスターを取り外し、ブレーキロッドをブレーキカムシャフトレバーから取

JAU25080

JAU41560

JWA10820

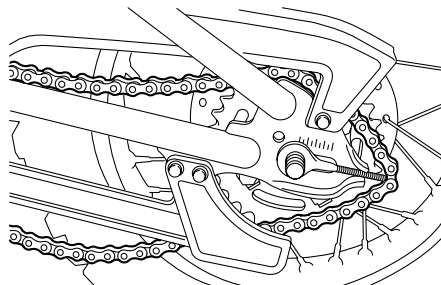
り外します。



1. アジャスター
2. スパースー
3. チェーンブラー
4. ホイールアクスル
5. ドライブチェーン調整ナット
6. ロックナット
7. トルクロッド
8. ブレーキトルクロッド取付ボルト
9. コッタピン
10. ブレーキトルクロッド取付ナット

3. コッタピン、ナット、ボルトを取り外し、ブレーキトルクロッドをブレーキシュープレートから取り外します。
4. スイングアーム両側のロックナットとドライブチェーン調整ナットをゆるめます。
5. リヤホイールを地面から持ち上げます。(6-22 ページ参照)

6. セルフロックングナットとワッシャーを取り外し、ホイールアクスルを引き抜きます。
7. ホイールを前方に押して、チェーンをリヤスプロケットから取り外します。



要 点

ホイールを取り外したり、取り付けたりするためにチェーンを分解する必要はありません。

8. スパースー、チェーンブラーを取り外し、ホイールを後ろに引いて取り外します。

JAU41570

リヤホイールの取り付けかた

1. リヤスプロケットにドライブチェーンをかけます。
2. チェーンブラーとスパースーを取り付け、ホイールを取り付けます。その後右

側からホイールアクスルを差し込みます。

3. ブレーキロッドをブレーキカムシャフトレバーに取り付け、ブレーキロッドにアジャスターを取り付けます。
4. ブレーキトルクロッドをブレーキシュープレートに取り付け、ボルトとナットを取り付けます。その後ナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

ブレーキトルクロッド取付ナット：
15.5 Nm (1.6 m・kgf)

5. ブレーキトルクロッド取付ボルトに、新品のコッタピンを取り付けます。

JWA10830



警告

コッタピンは常に新品を使用してください。

6. ワッシャーとセルフロックングナットを取り付け、リヤホイールを下げて地面に接地させます。
7. チェーンの張り調整を行います。(6-17 ページ参照)
8. セルフロックングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

セルフロックングナット：
60 Nm (6.0 m・kgf)

9. ブレーキペダルの遊びの調整を行います。(6-16 ページ参照)

こんなときは

ヤマハ車は工場から出荷前に入念に点検されていますが、使用中にトラブルが発生することがあります。燃料、圧縮、点火装置のトラブルは始動不良やパワーの低下を引き起こす原因となります。

次ページのトラブルシューティングチャートには、これらの重要なシステムをご自身で点検するための手軽な手順が記載されています。点検して、修理の必要がある場合にはヤマハ販売店に車両を持ち込んでください。専用の工具を使って経験、知識の豊富な整備士が適切に修理を行います。

部品を交換するときは、必ずヤマハ純正部品を使用してください。類似部品は、ヤマハ純正部品と似ていますが、しばしば性能で劣ることがあり、長持ちしないため、結局、修理費用が高つくことがあります。

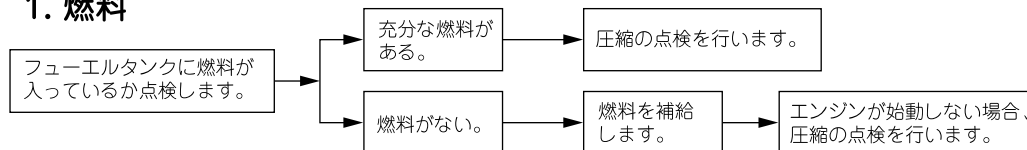
トラブルシューティングチャート



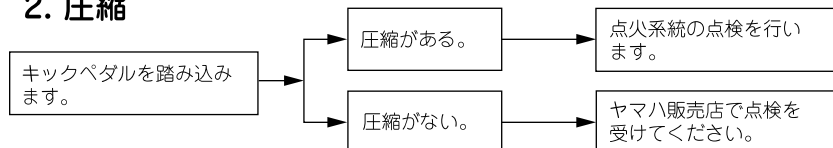
警告

燃料系統は、必ずタバコなどの火気がないところで点検作業してください。

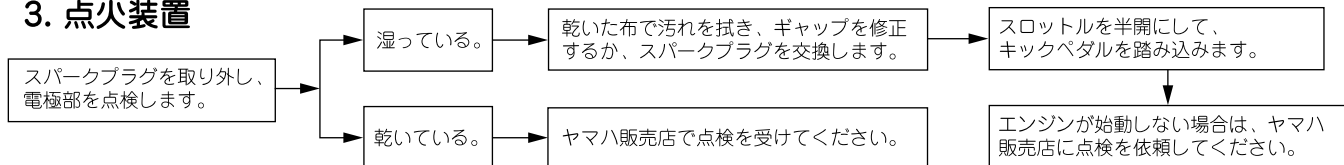
1. 燃料



2. 圧縮



3. 点火装置



お車の手入れと保管

JAU40461

お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。すみずみまで清掃すれば、普段気付かない異状箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

清掃前

1. エンジンが冷えた後、マフラー出口をビニール袋で覆います。
2. スパークプラグキャップを含む全ての電装品（プラグやコネクタ、およびキャップやカバー）が正しく取り付けられていることを確認します。
3. クランクケース上の焼き付いたオイルのような落ちにくい汚れは、脱脂剤とブラシで取ってください。ただし、脱脂剤をシール、ガスケット、スプロケット、ドライブチェーン、ホイールアクスルには決して使わないでください。汚れと脱脂剤は水で洗い落としてください。

清掃

JCA10770

▲ 注意

- 強酸性のホイールクリーナーの使用（特にスポークホイールへの使用）は避けてください。落ちにくい泥汚れを落とすのにこのような製品を使用する場合は、クリーナー

の使用説明書で指示された時間以上は決して放置しないでください。また水で完全に洗い流したあと、すぐに乾かし、防錆潤滑剤を塗布してください。

- ウィンドシールド、カウル、パネルなどのプラスチック部品は、清掃のしかたを誤ると損傷します。柔らかい清潔な布やスポンジを使用し、中性洗剤と水で清掃してください。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部品を傷つけますので使用しないでください。強力洗剤、研磨剤、溶剤、シンナー、燃料（ガソリン）、錆取り剤、錆止め剤、ブレーキフルード、不凍液、バッテリー液などの付着した布やスポンジは使用しないでください。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し以下の部分の故障の原因となります。：シール類（ホイールやスイングアームのベアリング、フロントフォーク、ブレーキ）、電装品（プラグ、コネクタ、計器、スイッチ、ライト）、ブリーザーホース、ベントホース
- ウィンドシールドを装備している車両について：強力なクリーナーや固いスポンジは、曇りや傷の原因となりますので使用し

ないでください。プラスチック用コンパウンドの中には、ウィンドシールドを傷付けるものがあります。あらかじめ目立たない場所で試してからご使用ください。ウィンドシールドに傷がついた場合は、洗車したあとで、試用して確認済みのプラスチック用コンパウンドを使用してください。

通常の使用後

汚れをぬるま湯、中性洗剤、清潔で柔らかいスポンジで落としてください。その後、きれいな水で完全に洗い流してください。手の届きにくい箇所は、歯ブラシあるいは細めの毛ブラシを使用してください。落ちにくい汚れや虫の死骸などは、清掃前に濡れた布を2～3分かぶせておくと落ちやすくなります。

雨天、あるいは海辺での走行後

海水に含まれる塩分は腐食性が高いため、雨天あるいは海辺での走行をする度に以下の手順で清掃を行なってください。

1. エンジンが冷えた後、車を冷水と中性洗剤で洗車します。

JCA10790

▲ 注意

温水は塩分の腐食性を促進させますので、使用しないでください。

2. メッキ部を含む全ての金属の表面に、腐

食を防ぐために防錆潤滑剤をかけてください。

洗車後

1. セーム皮か吸収性のある布で水気をよく拭き取り、乾かします。
2. すみやかにドライブチェーンを乾かし、錆を防ぐため ME-180 チェーンオイルを給油します。
3. 金属磨き剤を使ってエキゾーストシステムを含むクローム、アルミニウム、ステンレス部品を磨きます。(ステンレスエキゾーストシステムが熱によって引き起こされた変色も、金属磨き剤で取り除くことができます。)
4. 腐食を防ぐため、メッキ部を含む全ての金属の表面に、防錆潤滑剤をかけることをおすすめします。
5. スプレーオイルを使用して残った汚れを取り除きます。
6. 石はねなどによる塗装面の傷を修正します。
7. 塗装面にワックスをかけます。
8. 保管またはカバーをかける前に車を完全に乾かします。

JWA14500

警告

- ブレーキやタイヤには、オイルやワックスを付着させないでください。
- 必要なら、温水と中性洗剤でタイヤを洗浄してください。洗浄後、低速で走行してブレーキやコーナリング性能を点検してください。

JCA10800

注意

- スプレーオイルやワックスは少量を塗布し、拭き残しのないようにしてください。
- ゴムやプラスチックの部品に、プラスチック、ゴム用以外のオイルやワックスを塗布しないようにしてください。
- 研磨剤は塗装が剥がれる原因となりますので、使用しないでください。

要 点

アフターケア用品についてはヤマハ販売店にご相談ください。

JAU40651

保管のしかた

短期の保管

常に涼しくて乾燥した場所に保管してください。必要であれば、通気性のあるカバーをかけてほこりを防いでください。

JCA10810

注意

- 水分が残ったまま、通気性の悪い場所で車両を保管したり、通気性のないカバーをかけたりすると、錆の原因となります。
- 錆を防ぐため、湿気のある場所、家畜小屋(アンモニアが発生するため)、強力な薬品が保管されている場所を避けてください。

長期の保管

数か月間車を保管する前に：

1. この章の「お車の手入れ」の指示に従ってください。
2. “OFF” 位置のあるフューエルコックを装備した車：フューエルコックを“OFF”の位置にします。
3. キャブレターのドレンボルトをゆるめ、キャブレターフロートチャンバー内の燃料を抜きます。これにより、キャブレター内に燃料の沈殿物が溜まることを防止します。抜いた燃料は燃料タンクに入れま

お車の手入れと保管

す。

4. 以下の手順を行い、シリンダー、ピストンリングなどの腐食を防ぎます。
 - a. スパークプラグキャップとスパークプラグを外します。
 - b. スプーン一杯分のエンジンオイルをスパークプラグの孔に入れます。
 - c. スパークプラグキャップをスパークプラグに取り付け、その後スパークプラグをシリンダヘッドに置き、側方電極が確実にアースするようにします。(次の手順中、スパークプラグで放電されます。)
 - d. スターターでエンジンを数回、回します。(シリンダー壁にオイルを付着させます。)
 - e. スパークプラグキャップをスパークプラグから外し、その後スパークプラグとスパークプラグキャップを取り付けます。

JWA10950



スパークによる傷害を防ぐため、エンジンを回転させる間はプラグコードを確実に接地(アース)させてください。

5. 全てのケーブルとサイドスタンド、全て

のレバーとペダルの作動部に注油します。

6. タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気を入れます。その後、車をリフトアップして、両輪のホイールが地面から離れるようにします。それができない場合は、タイヤの接地部分に負荷がかかるのを防ぐため、毎月ホイールを少しずつ回して接地部分の位置を変えます。
7. マフラー出口をビニール袋で覆い、湿気が侵入するのを防ぎます。

要 点

車を保管する前に、必要な修理を行います。

JAU28081

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28151

オートループスーパーオイル

ヤマハの2ストロークエンジンにはヤマハオートループスーパーオイルをご使用ください。

オートループスーパーオイルはヤマハの2ストロークエンジンのために開発されたエンジンオイルです。



JAU28190

ME-R フィルターオイル

ヤマハコンペティションモデル専用開発したフィルターオイルです。火山灰、サンド、赤土、泥ねい、泥水など、全日本MXラ

ウインド全ての状況を考慮して開発・テストしてありますので、車は常に優れた性能を発揮できます。



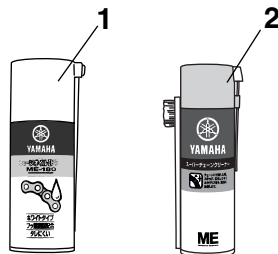
JAU28220

ME-180 チェーンオイル

フッ素樹脂配合により耐摩耗性、耐熱性に優れたチェーンオイルです。“ドライ”と“ウェットムースタイプ”があります。

ME スーパーチェーンクリーナー

チェーンに付着したグリースやオイルなどの油汚れを手軽に素早くクリーニングします。



1. ME-180 チェーンオイル
2. ME スーパーチェーンクリーナー

JAU28270

ギヤオイル

極圧性、酸化安定性に優れ、油膜強度が高いギヤオイルです。アワ立ちもきわめて少ないため、ベアリングの腐食や摩耗を防ぎます。



ヤマハグリース B

リチウム石けん基のグリースで、耐水、耐熱、耐漏れ性、せん断安定性に優れた万能タイプです。

ME-180 ワイヤグリース

各ワイヤーを潤滑、保護します。土、泥、ほこり、水などの悪条件に威力を発揮します。



1. ヤマハグリースB
2. ME-180 ワイヤグリース

お車の手入れと保管

JAU42160

ME-180（防錆潤滑剤）

防錆、潤滑、防湿、浸透力に優れた金属保護液です。



JAU2633H

寸法：

全長：
1540 mm
全幅：
640 mm
全高：
880 mm
シート高：
635 mm
軸間距離：
1055 mm
最低地上高：
185 mm

重量：

車両重量：
61 kg

性能：

最小回転半径：
1700 mm
最高出力：
3.5 kW@5500 r/min
(4.8 PS@5500 r/min)
最大トルク：
6.27 Nm@5000 r/min
(0.64 kgf-m@5000 r/min)

エンジン：

原動機種類：
2 ストローク空冷
気筒数・配列：
単気筒
総排気量：
79.0 cm³
内径 x 行程：
47.0 x 45.6 mm
圧縮比：
6.60 : 1
エアフィルターエレメント：
湿式エレメント
クラッチ形式：
湿式多板オートマチック
ミッション・チェンジ方式：
常時かみ合式 3 速
始動方式：
キック式

車体：

フレーム形式：
パイプバックボーン
キャスター：
26.00 °
トレール：
62.0 mm

ステアリングシステム：

ハンドル切れ角（左）：
45.0 °
ハンドル切れ角（右）：
45.0 °

燃料：

フューエルタンク容量：
4.9 L
予備容量：
1.0 L

フロントブレーキ：

ブレーキ形式：
機械式ドラムブレーキ

リヤブレーキ：

ブレーキ形式：
機械式ドラムブレーキ

懸架方式：

種類（前）：
テレスコピック
種類（後）：
スイングアーム（モノクロス）

緩衝方式：

ショックアブソーバータイプ（前）：
コイルスプリング / オイルダンパ

製品仕様

ショックアブソーバータイプ（後）： コイルスプリング / ガスオイルダンパ	2 速： 29/16 (1.812) 3 速： 22/17 (1.294) 2 次減速比： 32/15 (2.133)	ブレーキレバーとブレーキペダル： フロントブレーキレバー遊び： 10.0–20.0 mm ブレーキペダル遊び： 10.0–20.0 mm スロットルケーブル遊び： 3.0–5.0 mm
フロントタイヤ： 種類： チューブ有り サイズ： 2.50-14 4PR メーカー / 銘柄： CHENG SHIN/KNOBBY	エレクトリカル： 点火方式： C D I エンジンオイル： 指定オイル： ヤマハオートループスーパーオイル オイルタンク容量： 0.95 L	フロントドラムブレーキ： ライニング厚さ： 3.0 mm 使用限度： 1.5 mm
リヤタイヤ： 種類： チューブ有り サイズ： 3.00-12 4PR メーカー / 銘柄： CHENG SHIN/KNOBBY	トランスミッションオイル： 指定オイル： ヤマハギヤオイル 定期交換時： 0.65 L エンジン分解時： 0.75 L	リヤドラムブレーキ： ライニング厚さ： 4.0 mm 使用限度： 1.5 mm
積載量： 最大乗員体重： 40.0 kg	ドライブチェーン： たわみ量： 40.0–53.0 mm	ホイールトラベル： ホイールトラベル（前）： 110.0 mm ホイールトラベル（後）： 95.0 mm
トランスミッション： 1 次減速比： 66/21 (3.143) 1 速： 39/12 (3.250)		タイヤ空気圧（冷間時）： 前輪： 100 kPa (1.00 kgf/cm ²)

後輪:

100 kPa (1.00 kgf/cm²)

点火タイミング:

点火時期 (B. T. D. C.):

20.6° /4000 r/min

スパークプラグ:

メーカー / 型式:

NGK/BPR6HS

プラグギャップ:

0.6-0.7 mm

ユーザー情報

JAU40790

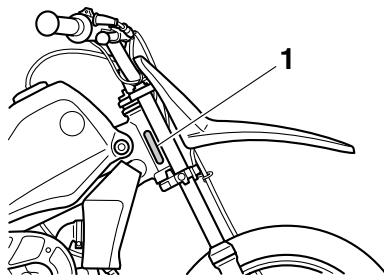
ID 番号

車台番号、モデルラベルの情報を下記に記録しておき、ヤマハ販売店に部品を注文する時や、車が盗難にあった場合などに役立ててください。

- 車台番号：

- モデルラベルの情報：

車台番号



1. 車台番号

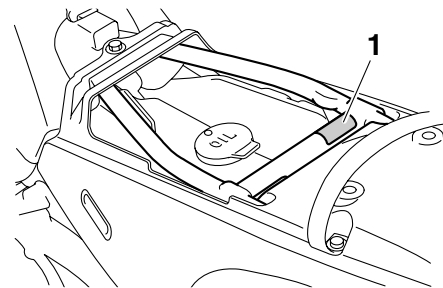
車台番号はステアリングヘッドパイプに打刻されています。指定の空欄にこの番号を控えておいてください。

要 点

車台番号は自分の車であることを証明するために使用します。

JAU26400

モデルラベル



1. モデルラベル

モデルラベルはシート下のフレームに貼り付けてあります。(3-6 ページ参照) このラベルの情報を所定の空欄に控えておいてください。この情報はヤマハ販売店で部品を注文するときに必要になります。

JAU26480

JAU36640

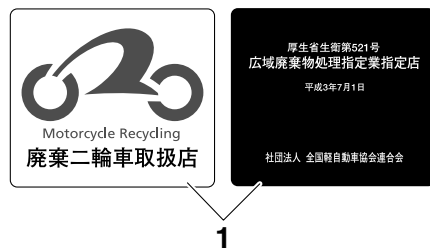
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

(社) 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用を

メーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

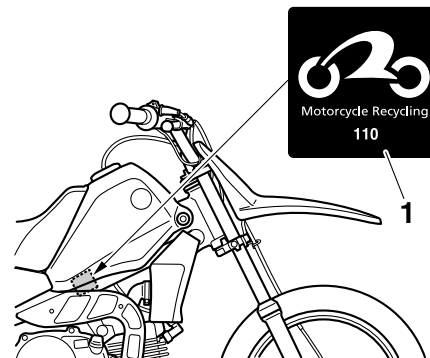
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

(財) 自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9時30分～17時00分(土・日・祝日・年末年始等を除く)

ユーザー情報

JAU42170

サービスマニュアル(別売)の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。このモデルでは、サービスマニュアルの代わりとして、オーナーズサービスマニュアルを紹介しています。

オーナーズサービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

PW80 オーナーズサービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-211-4BC

あなたの街のあなたのお店

QQS-CLT-212-4BC

再生紙を使用しています



PRINTED IN JAPAN
2006.6-0.1 × 1 
(J)